

第48回景況アンケート調査 結果報告書

(令和2年10月29日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL 0284-21-1354 Fax 0284-21-6294

《令和 2年 7月～ 9月期》実 績
《令和 2年 10月～ 12月期》見通し

調 査 要 領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和2年9月23日(水)～令和2年10月8日(木)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業206社
(うち回答企業数165社：回答率80.1%)

4. 回答企業数

製造業	58	社
繊維工業	19	社
建設業・設備工事業	21	社
卸売業・小売業	29	社
飲食業・サービス業	38	社
計	165	社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

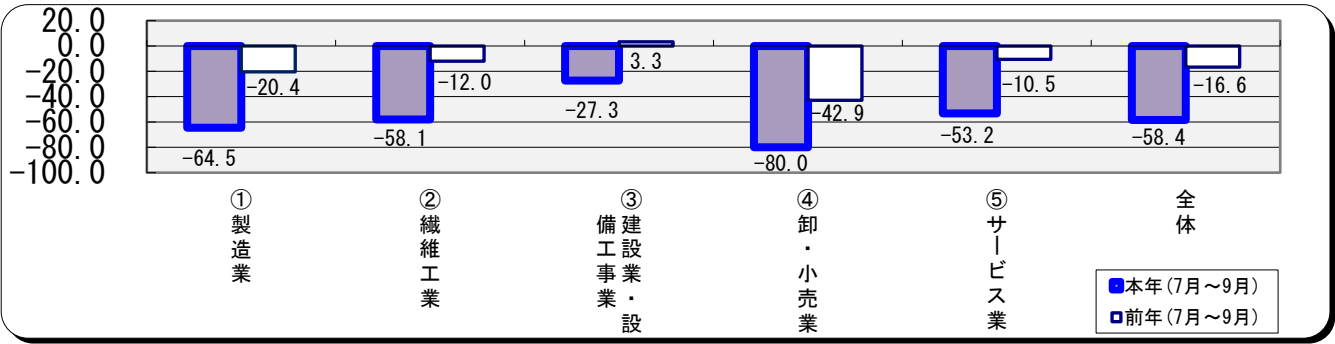
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（7月～9月）の景況について

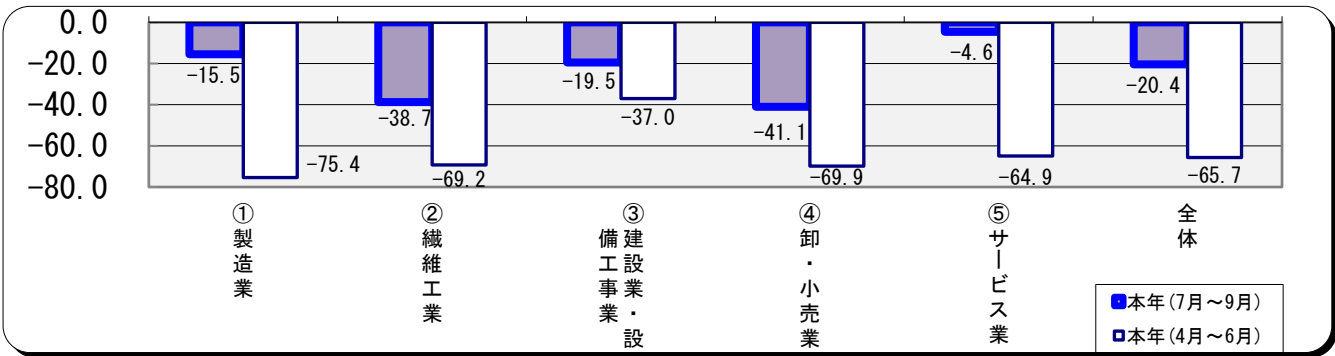
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲58.4ポイント（前年同期▲16.6）と、前年同期に比べて41.8ポイント悪化した。業種別でも、製造業では44.1ポイント、繊維工業では46.1ポイント、卸・小売業では37.1ポイント、サービス業では、42.7ポイント悪化した。また、建設業・設備工事業では▲27.3ポイント（前年同期3.3）と、30.6ポイント減少し、マイナスに転じた。

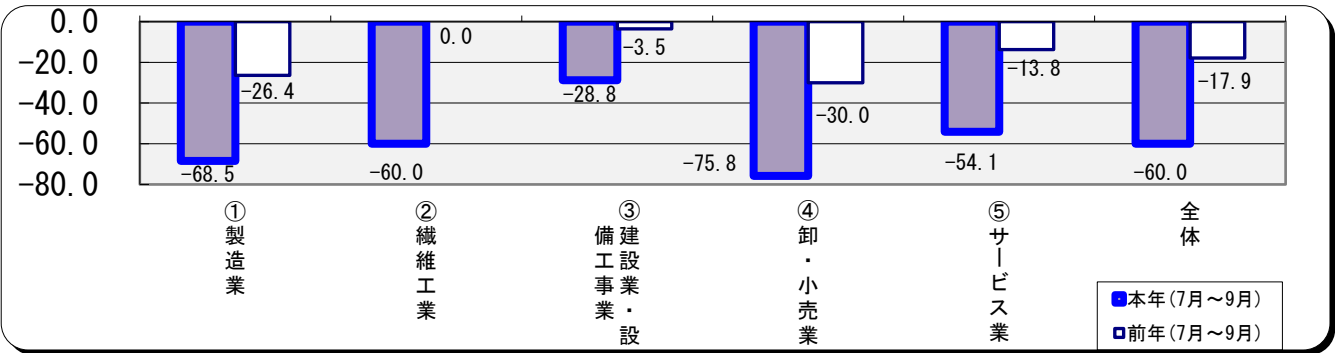
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲20.4ポイント（前期▲65.7）と、前期（前3ヵ月間）に比べて45.3ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業が59.9ポイント、繊維工業が30.5ポイント、建設業・設備工事業が17.5ポイント、卸・小売業では28.8ポイント、サービス業では60.3ポイントと、全業種でマイナス幅が縮小した。

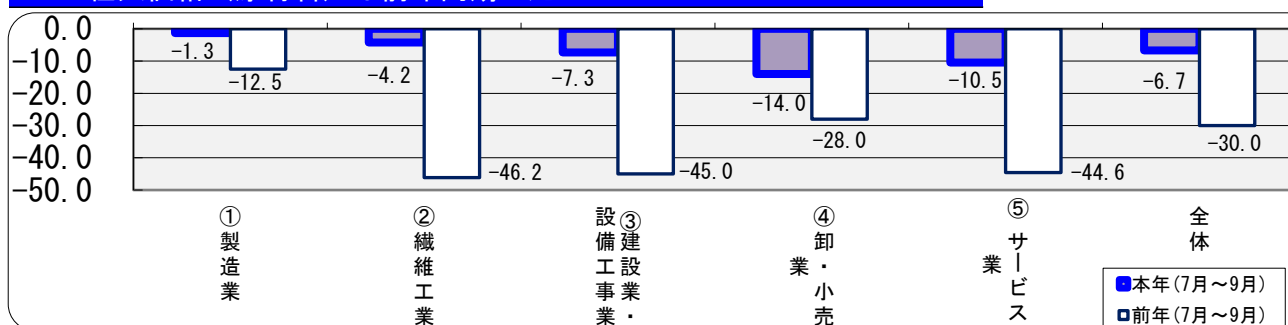
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲60.0ポイント（前年同期▲17.9）と42.1ポイント大幅に悪化した。業種別では、製造業では、▲42.1ポイント、繊維工業では、▲60.0ポイント、建設業・設備工事業では、▲25.3ポイント、卸・小売業では、▲45.8ポイント、サービス業では、▲40.3ポイントと全業種でマイナス幅が拡大した。

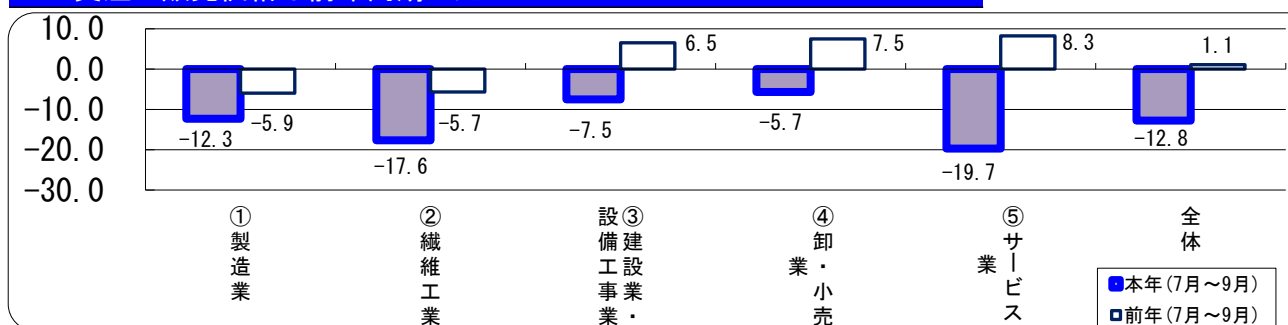
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲6.7ポイント（前年同期▲30.0）と前年同期に比べて23.3ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、マイナスではあるもののマイナス幅が全業種とも縮小の傾向が見られた。

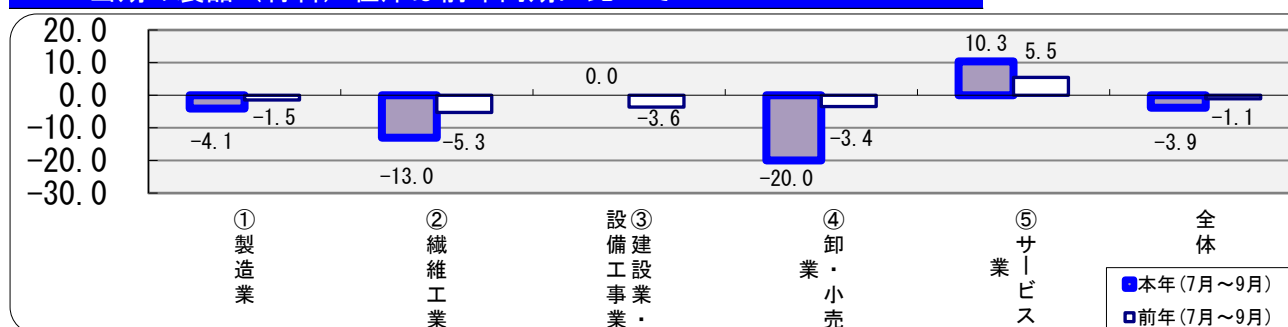
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では▲12.8ポイント（前年同期1.1）と13.9ポイント下落し、マイナスに転じた。業種別でも、サービス業が28ポイント、卸・小売業が13.2ポイント、建設業・設備工事業が14ポイント下落し、マイナスに転じた。また、繊維業では、11.9ポイント、製造業では、6.4ポイントマイナス幅が拡大した。

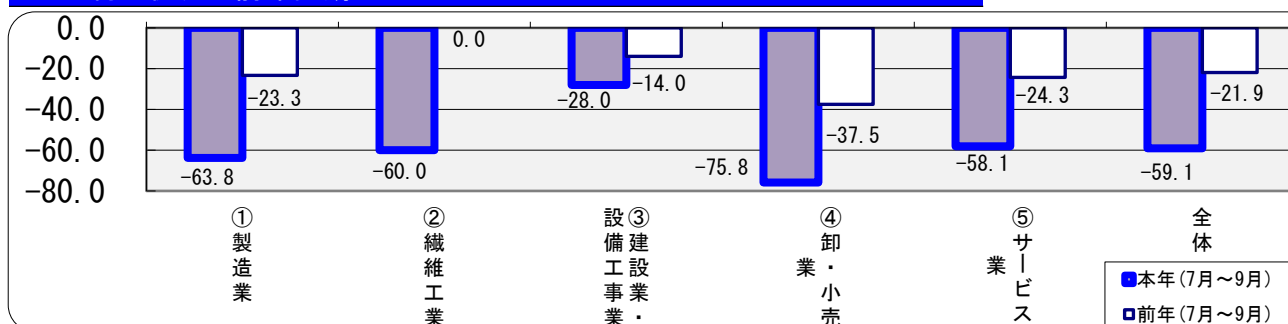
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲3.9ポイント（前年同期▲1.1）と、前年同期に比べて2.8ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、建設業・設備工事業では、0ポイント（前年同期▲3.6）とマイナス幅が解消された。一方、卸・小売業、繊維工業、製造業はマイナス幅が拡大した。他方、サービス業では、10.3ポイント（前年同期5.5）と4.8ポイントプラス幅が拡大した。

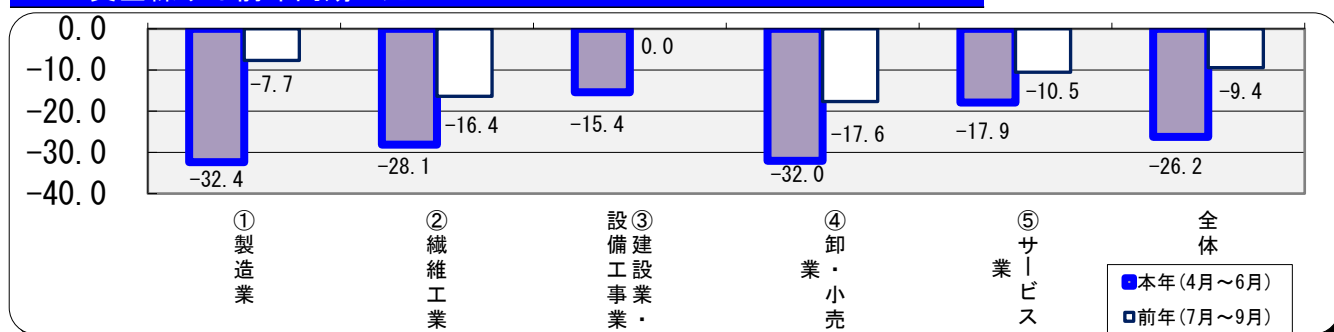
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲59.1ポイント（前年同期▲21.9）と、前年同期と比べて37.2ポイントと大幅に悪化。業種別では、全ての業種でマイナス幅が拡大した。

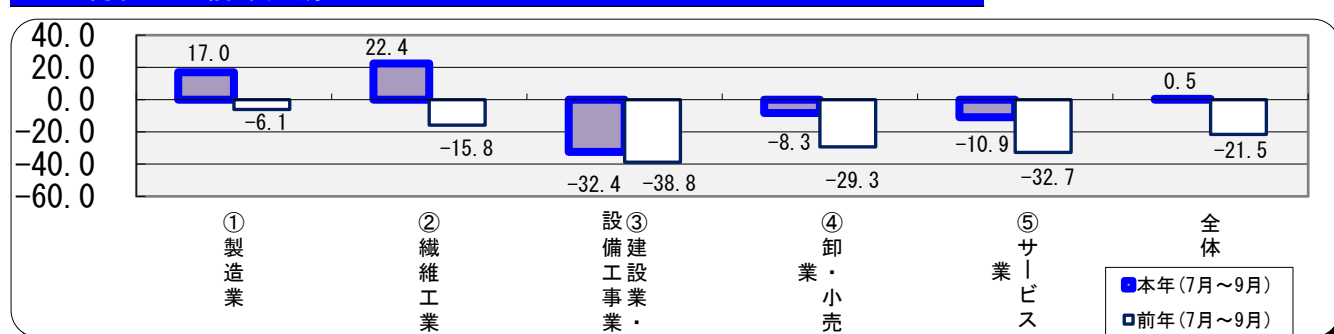
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰りD I】

資金繰りD Iは、全体では▲26.2ポイント（前年同期▲9.4）と、前年同期と比べて16.8ポイント悪化した。業種別では、製造業の▲32.4ポイント（前年同期▲7.7）と、24.7ポイント減少したように、全ての業種でマイナス幅が拡大した。

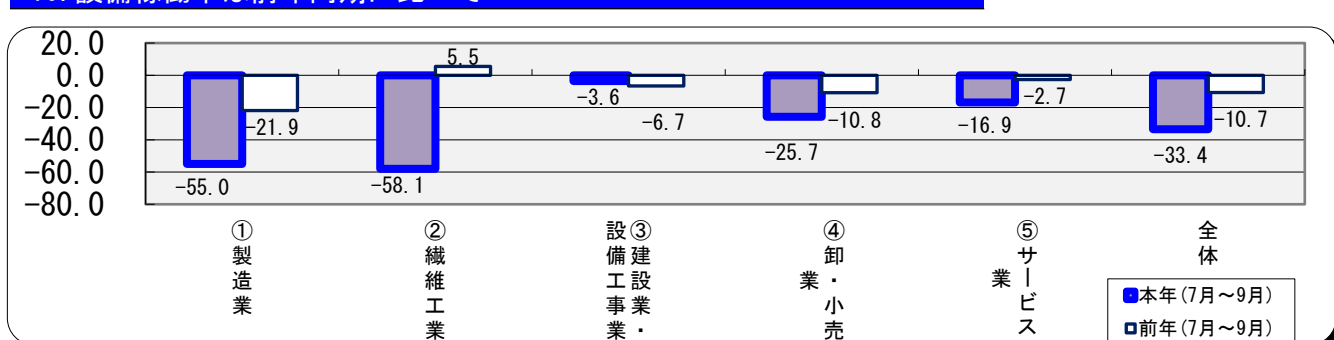
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力D I】

労働力D Iは、全体で0.5ポイント（前年同期▲21.5）と、前年同期に比べて22ポイント改善しプラスに転じた。業種別では、卸・小売業が21ポイント、サービス業が21.8ポイント、建設業・設備工事業が6.4ポイント、マイナス幅が縮小した。その他、製造業、繊維工業では、マイナスからプラスに転じた。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

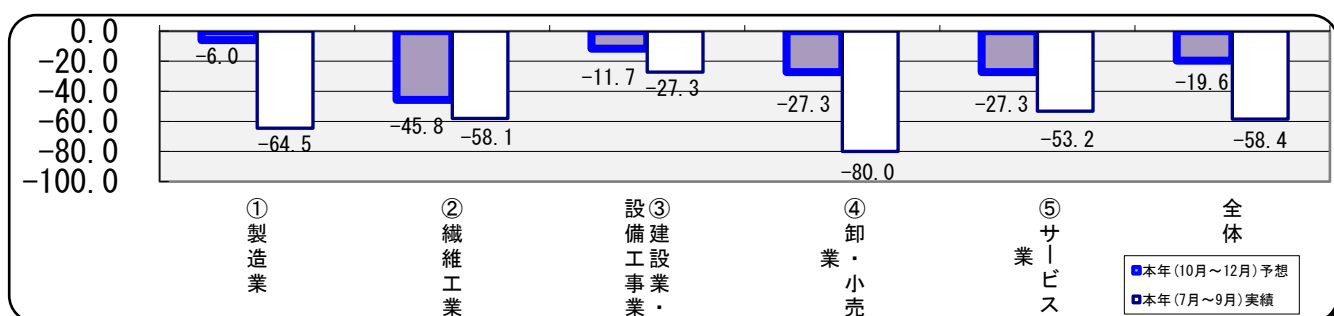


【設備稼働率D I】

設備稼働率D Iは、全体で▲33.4ポイント（前年同期▲10.7）と、前年同期に比べて22.7ポイント悪化して、マイナス幅が拡大。業種別では、製造業、卸・小売業、サービス業もマイナス幅が拡大した。また、繊維工業が▲58.1ポイント（前年同期5.5）と前年同期と比べ63.6ポイント悪化しマイナスに転じた。建設業・設備工事業では、僅かだがマイナス幅が縮小した。

Ⅱ. 今後3ヵ月間(令和2年10月～12月)の推移の予想について

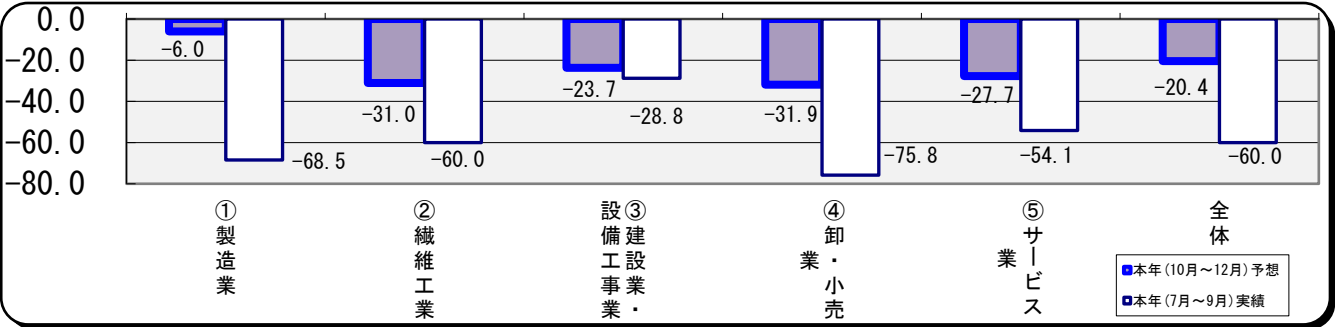
11. 業況は当期（7月～9月期）に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲19.6ポイント（当期▲58.4）と、38.8ポイントマイナス幅が改善する見込みだが、依然マイナス傾向が続く。業種別では、製造業をはじめ全ての業種でマイナス幅が改善すると予想している。

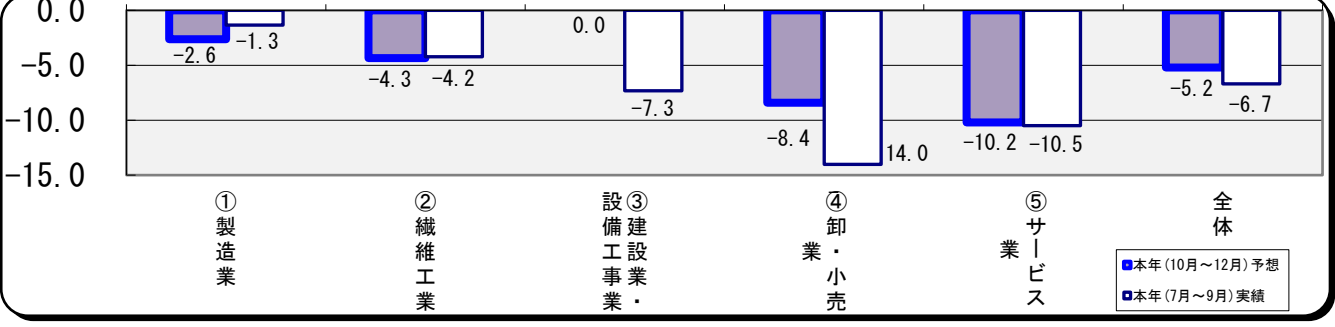
12. 売上高は当期（7月～9月期）に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲20.4ポイント（当期▲60.0）と、39.6ポイントマイナス幅が縮小する見込みだが、依然マイナス傾向。業種別では、製造業▲6ポイント（当期▲68.5）と、62.5ポイント等、全ての業種でマイナス幅が縮小される見込み。

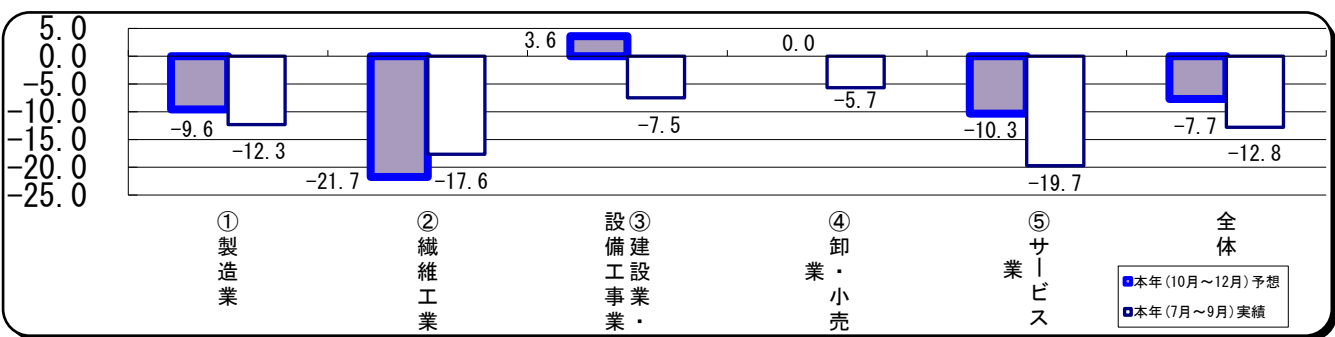
13. 仕入価格（原材料）は当期（7月～9月期）に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは全体で▲5.2ポイント（当期▲6.7）と、1.5ポイントマイナス幅が縮小する見込み。業種別では、卸・小売業、サービス業ではマイナス幅が縮小する見込み。建設業・設備工事業は仕入価格は変わらないと見込んでいる。一方、製造業、繊維工業では、マイナス幅が拡大する見込み。

14. 受注・販売価格は当期（7月～9月期）に比べて

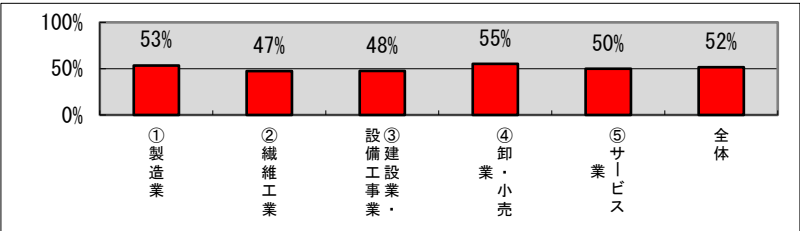


【受注・販売価格D I】

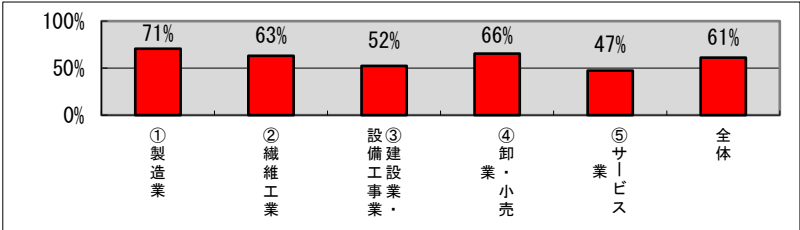
受注・販売価格D Iは全体で▲7.7ポイント（当期▲12.8）と、5.1ポイントと減少幅縮小の見込み。業種別では、製造業、卸・小売業、サービス業で、マイナス幅が縮小する見込み。また、建設・設備工事業ではマイナス幅が解消され、プラスに転じる見込み。一方で、繊維工業では、マイナス幅が拡大した。

Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

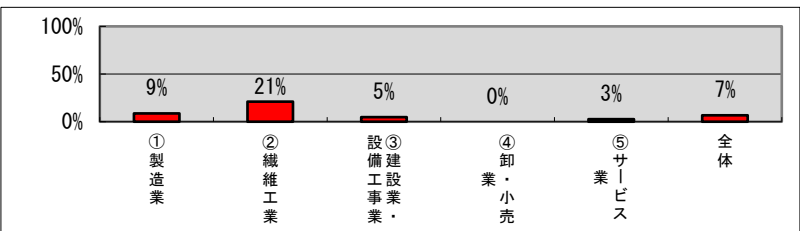
1. 経営の見通し（将来性）		
①. 製造業		31
②. 繊維工業		9
③. 建設業・設備工事業		10
④. 卸売業・小売業		16
⑤. サービス業		19
全	体	85



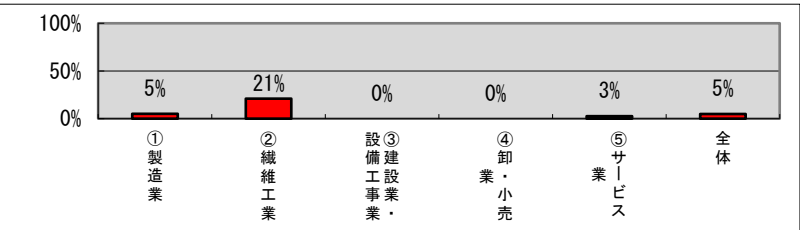
2. 売上（受注）の低下		
①. 製造業		41
②. 繊維工業		12
③. 建設業・設備工事業		11
④. 卸売業・小売業		19
⑤. サービス業		18
全	体	101



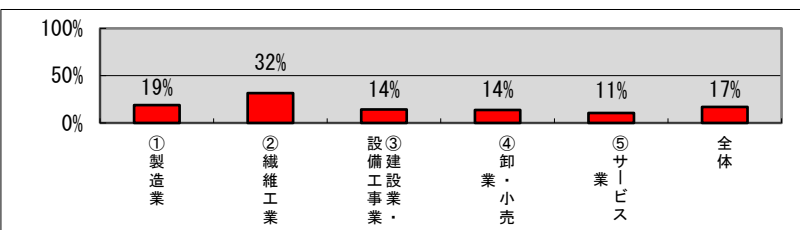
3. 工賃（請負）単価の低下		
①. 製造業		5
②. 繊維工業		4
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		1
全	体	11



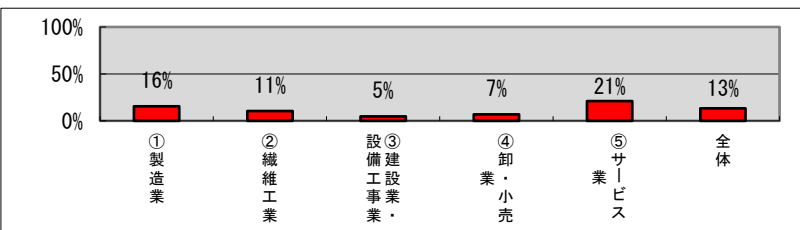
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇		
①. 製造業		3
②. 繊維工業		4
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		1
全	体	8



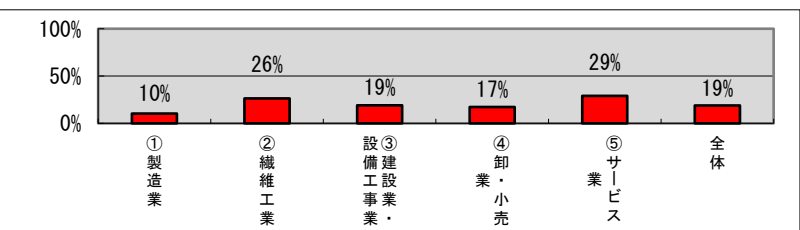
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）		
①. 製造業		11
②. 繊維工業		6
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		4
全	体	28



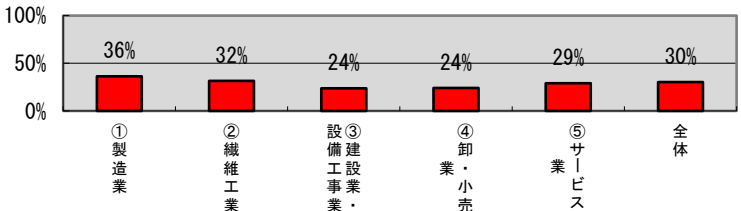
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）		
①. 製造業		9
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		2
⑤. サービス業		8
全	体	22



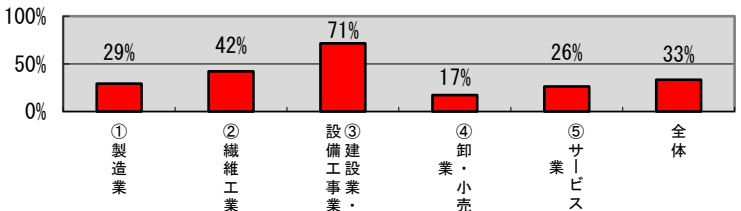
7. 経費（人件費・外注費）の増加		
①. 製造業		6
②. 繊維工業		5
③. 建設業・設備工事業		4
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		11
全	体	31



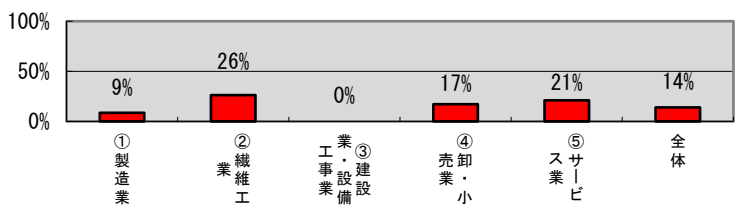
8. 設備・店舗・工場等の老朽化		
①. 製造業		21
②. 繊維工業		6
③. 建設業・設備工事業		5
④. 卸売業・小売業		7
⑤. サービス業		11
全	体	50



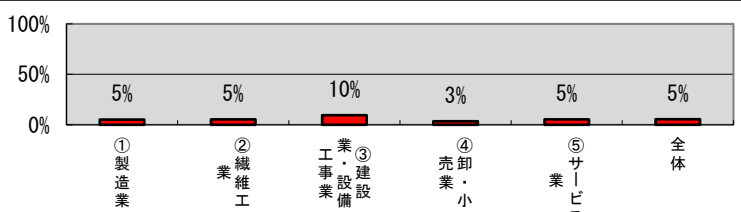
9. 従業員・技術者等の確保難		
①. 製造業		17
②. 繊維工業		8
③. 建設業・設備工事業		15
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		10
全	体	55



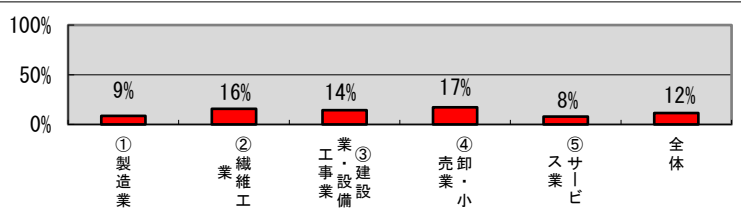
10. 消費者（製品）ニーズの変化		
①. 製造業		5
②. 繊維工業		5
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		8
全	体	23



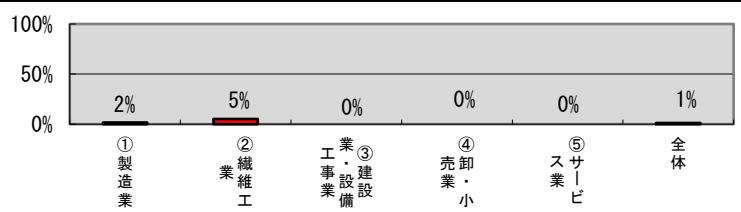
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化		
①. 製造業		3
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		2
④. 卸売業・小売業		1
⑤. サービス業		2
全	体	9



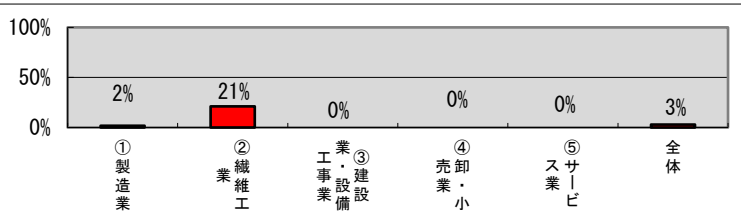
12. 後継者難と事業承継		
①. 製造業		5
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		3
全	体	19



13. 円の動向による影響		
①. 製造業		1
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		0
全	体	2



14. 電気料金値上げに伴う対応		
①. 製造業		1
②. 繊維工業		4
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		0
全	体	5



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「売上(受注)の低下」を挙げた企業が61%で最も高く、次いで「経営の見通し(将来性)」(52%)、「技術者(従業員)の確保難」(33%)、「設備・店舗・工場の老朽化」(30%)、「経費(人件費・外注費)の増加」(19%)、「資金繰りの悪化(資金調達等)」(17%)と、続いている。

業種別では、全業種で「売上(受注)の低下」を深刻な問題として挙げている。業況の先行きが見えない状況下で、全業種とも「経営の見通し(将来性)」に不安を示す数値となっている。

また、建設・設備工事業では、「技術者(従業員)の確保難」(71%)が大きな課題となっている。

コロナウイルス感染拡大の影響が、まだ色濃く残っているが、巣ごもり消費等により、ネット通販やデリバリー等を活用する消費者の増加、建設業では台風などの災害復旧を含む公共工事の下支え等、業種によっては回復の兆しを見せる部分もみられる。一方、消費者のマインド低下や観光需要の低迷から、飲食・宿泊をはじめ関連産業の経営は依然厳しい状況が続く。また、コロナ対策のコスト増を指摘する声も聞かれる等、景況感は持ち直しに向けた動きもみられるものの、依然厳しい状況が続いている。

【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・先が見えない、一寸先は闇。きっかけ、兆しが見当もつかないのは不安で仕方ない。倒産情報も多く耳にし、M&Aの話も耳にする。気になるのは採用、不況の割には動きが鈍く、失業手当期間内はこのままで、半年後以降から活発になるのでは？その時どうするか、新卒の採用含め悩ましいところ。
- ・外注先、協力会社等とのサプライチェーン維持強化が課題。
- ・希望する人材の不足。
- ・会社の業績は、堅調に推移している。ただ、会社の外へ目を向けると、一部業界企業を除いて景況感が冷え込んだ状態が続いていることをひしひしと感じる。会社のかじ取りを行う上でも、経済状況をしっかりと把握することが重要。自分の目と肌で物事を感じ取る力が各々に求められることになる。
- ・買い控え、出費控えのコロナ禍では、当社も受注が減少しており、これからの方が今までよりも心配。コロナにより、運転資金の悪化で銀行より借入をしたが、今後の返済計画を考えても(3年後)良い案が出てこない。ただ、今の現状を見上げるのみ。

◎繊維工業

- ・検査、試験等の紹介をしてほしい。
- ・地域内連携により、サプライチェーンを構築することで、納期や価格での競争力を維持してきたが、同業者の廃業が多く見込まれる中で、それが難しくなりつつある。

◎建設業・設備工事業

- ・材料が不足気味。

◎卸・小売業

- ・コロナの影響により、今後の計画など、なかなか立てられないが、今できることをしっかりやるだけ。
- ・全体的に少しずつ悪化しているため、在庫過多と売上減少。東京方面からの来店者不足。

◎飲食・サービス業

- ・足利市の発展の為、希望的観測や無駄な話ばかりではなく、具体的な方策を会議する場を設けてほしい。またそれがあるなら、積極的に広報を活用し情報を拡散してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、売上の減少・支出、外食関係が特に影響が大きく、今後の感染対策を充分に対応しているところに関しては、活用を促せるよう、指導を願いたい。

足利市のチラシ折込調査レポート（2020.08）

調査地：足利市伊勢町

2020年8月の足利市の折込広告枚数は255枚で前年比マイナス28.0%（前々年比はマイナス29.6%）であった【※栃木県4地区平均では274.0枚、前年比-22.2%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の57.6%であった。次いでB3(A3)サイズの38.8%となり2種類のサイズが9割以上を占めた。また曜日別では、土曜日が最も多く全体の23.1%に上り、次いで日曜日の16.1%、金曜日の15.7%、水曜日、火曜日、木曜日、月曜日と続いた。

業種別では**食品スーパー**が72枚（前年比-20.9%）で、先月に引き続き首位となった。2位は**医薬・化粧品**で34枚（前年比-29.2%）、3位は**家電・精密機器**で26枚（前年比-13.3%）であった。4位は**輸送機器**で11枚（前年比-38.9%）、5位は9枚で**外食**（前年比-35.7%）と**不動産・建築**（前年比-56.6%）が並び、上位6業種すべてが2ケタのマイナスとなった。

		3月	4月	5月	6月	7月	8月
足利	枚数(枚)	332	195	144	247	290	255
	前年比(%)	▲32.1	▲53.3	▲60.2	▲34.0	▲24.9	▲28.0
	前々年比(%)	▲38.6	▲55.2	▲64.3	▲39.0	▲30.1	▲29.6
栃木県平均	枚数(枚)	341.8	211.8	165.3	269.3	309.5	274.0

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2020年8月1日～31日)

順位	業種（細分類）	枚数			前年比 (%)	前々年比 (%)
		20年	19年	18年		
1	食品スーパー	72	91	95	-20.9	-24.2
2	医薬・化粧品（ドラッグストア・通販等）	34	48	42	-29.2	-19.0
3	家電・精密機器	26	30	26	-13.3	0.0
4	輸送機器（自動車・カー用品等）	11	18	18	-38.9	-38.9
5	外食	9	14	15	-35.7	-40.0
	不動産・建築	9	19	14	-52.6	-35.7

サイズ別枚数（2020年8月1日～31日）

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	7	99	147	2
0.0%	2.7%	38.8%	57.6%	0.8%

曜日別枚数

(2020年8月1日～31日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
41	18	31	37	29	40	59
16.1%	7.1%	12.2%	14.5%	11.4%	15.7%	23.1%